

分 科 会

新しい時代を伸びやかに生きる ～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

予測が難しいといわれる時代の中であって、子供も保育者も保護者も、その人らしく伸びやかに生きていくために、質の高い幼児教育を研究・実践し、この営みの大切さを社会に開き、伝え、共有し、皆で子供を真ん中にして進んでいきましょう。

長野大会は、一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の令和4・5年度の教育研究課題である「新しい時代を伸びやかに生きる～社会に開かれた質の高い幼児教育を～」を研究テーマに、10の分科会で研究協議を行います。

ディレクターとは？

分科会当日だけでなく、準備段階から当日までの統括を行います。

各分科会独自のビジョンを提示し、話題提供者・助言者・開催県の分科会担当者（担当園）などと連携をとりながら、分科会の企画・運営に当たります。

話題提供者とは？

保育現場からの実践に基づく報告、実践研究を行う上で必要と思われる最新の情報、幼児教育を取り巻く課題などの話題を提供していただきます。

仲間の保育実践に学ぶとともに、研究者・実践家などの専門的な立場からの話題提供を得て、視野を広げ、日常の指導に活かしたいというのがねらいです。

分科会運営委員とは？

各分科会の当日の運営がスムーズにいくために、多面的に見届けていただくことと、東海北陸地区の研究が積み重なっていくことを支えていただきます。

助言者とは？

実践や研究に対する講評や指導助言をいただき、分科会参加者と同じ目線で研究を支えていただきます。学問と教育現場・保育実践をつなぎ、連携を深めるという役割を担っていただきます。

7月28日（金） 9：30～15：30

	テーマ・よびかけ	担当県	ディレクター	幼稚園
第1分科会	園の安全管理体制・危機管理体制を考える 園において、子供たちの安心安全を考えましょう。また、子供たち自身も想定外の危機に対して臨機応変な対応するにはどうすればよいのでしょうか？	静岡県	山崎弘樹	学校法人山崎学園 みなみ幼稚園
第2分科会	教育課程の編成と評価・改善 対話を通して、幼児の思いが実現するようなカリキュラム・マネジメントしていませんか。	富山県	藤島秀恵	リンデ幼稚園
第3分科会	発達の連続性を踏まえた幼児期の学び 幼児期の育ちとは、誕生からの育ちと学びの連続性によるものです。発達の連続性を大切に保育とは、どのようなものでしょうか。子どもの育ちや学びのプロセスを語り合いながら一緒に考えていきましょう。	福井県	杉山聡理	藤島幼稚園
第4分科会	社会性の育ちと規範意識の育ち 集団生活の中に出現する問題行動やトラブルは、保育者としてどのように関われば子どもの社会性の育ちに繋がるのか考えましょう。	岐阜県	浅野教史	いつみ中央幼稚園
第5分科会	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた保育実践 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を保育実践例の中からみとり、保育の振り返りをし保育の質の向上につなげよう	長野県	片桐淳子	認定こども園 聖クララ幼稚園
第6分科会	子どもの育ちを共有するための様々な記録とその活用 記録をもとに子どもの育ちを共有して、令和の時代に即した質の高い保育を考えましょう！	静岡県	大石竜士	静岡聖光幼稚園
第7分科会	特別な支援を必要とする幼児への指導と家庭との連携 共に育ちあうために	三重県	福田教子	有緝こども園
第8分科会	遊びが充実するための環境と保育実践 豊かな教育環境「自然」について見つめなおし、子どもたちの遊びを深めていこう！	石川県	油田美沙	学校法人金石幼稚園
第9分科会	保護者の理解を深める「保育の見える化」を考える② より良い実践につながる「保育の見える化」について語り合しましょう。	愛知県	足立正和	愛知文教女子短期大学 附属一宮東幼稚園
第10分科会	幼児教育と小学校教育の円滑な接続 幼児期から児童期に育てたい力とはなにか。幼児の発達の姿から考えよう。	愛知県	近藤智子	幼保連携型認定こども園 中山松元幼稚園

10：00～12：20

PTA大会	講演 内海裕美 清川輝基	長野県		
-------	--------------------	-----	--	--

第1分科会

園の安全管理体制・危機管理体制を考える

よびかけ：

園において、子供たちの安心安全を考えましょう。また子供たち自身も想定外の危機に対して臨機応変な対応するにはどうすればよいのでしょうか？

分科会のねらい

園生活において、子供たちは安心して安全な生活を送る環境が確保されていなければなりません。そのためには、園内の環境設定や保育者の知識・指導が必要となります。また家庭と一体になって安全管理を考えることも大切です。想定外の危機が起きた際には保育者をはじめ、子供自身も臨機応変に自分を守るための対応や行動が取れるように学ぶことも求められます。そこで安全管理・危機管理の在り方を探り、実践的なマニュアル等の向上を図ると共に、想定外の危機に対しても対応できるようにするための対策を考えましょう。

研究の手がかり

- ・ マニュアル等の質の向上に向けて、園の安全管理、危機管理体制について考えてみましょう。
- ・ 子供が園生活の中で、安全を意識して生活するようになる為には、どのような環境の構成や教師の関わり、家庭への働きかけが必要か考えましょう。

担当県 静岡県

研修俯瞰図記号

A 3

話題提供者

十鳥 ゆりか ジュウトリユリカ
富士光明幼稚園

渡邊 恭平 ワタナベキョウヘイ
富士宮東幼稚園

山竹 幸未 ヤマタケユキミ
ふじみ幼稚園

山口 仁 ヤマガチヒトシ
富塚幼稚園

ディレクター

山崎 弘樹 ヤマザキヒロキ
学校法人山崎学園みなみ幼稚園

司会者

垣本 範子 カキモトノリコ
有度幼稚園

運営委員

杉山 一夫 スギヤマカズオ
うぬま第一幼稚園

助言者

木宮 敬信 キミヤタカノブ
常葉大学教育学部生涯学習学科教授

タイムスケジュール

9:30	開会 オリエンテーション 話題提供 助言者からの講義
12:00	質疑応答、レポート
12:30	昼食
13:30	グループワーク 発表や助言者による指導 助言者による講義（まとめ）
15:30	閉会

1969年8月31日生 53歳 専門：安全教育学

神戸大学大学院博士課程を修了。阪神淡路大震災での被災経験をきっかけに防災教育に取り組むようになり、文部科学省委員として児童向けの教材をいくつか作成した。その後、大阪教育大学附属池田小学校事件を契機に犯罪から子どもを守るための教材の検討に関わるようになり、科学技術振興機構による「犯罪からの子どもの安全」プロジェクトにグループリーダーとして参加し、e-learning教材の作製に携わった。また、静岡県交通安全対策会議委員として、交通安全教育についてもプログラム開発を進めている。

2018年度からは、文部科学省委員として学校安全教材「『生きる力』を育む学校での安全教育学」および「学校の危機管理マニュアル作成の手引き」の改訂に携わった。令和4年9月に静岡県牧之原市で起こった送迎バス置き去り事故に関して、静岡県が作成した児童の車両送迎に係る安全管理指針の監修、県内園関係者を対象とした研修講師を務めたほか、牧之原市事故検証委員会副委員長として再発防止策の策定に取り組んでいる。また、バスケットボールの指導者として、浜松大学（現常葉大学）を西日本大会優勝、東海地区大会5連覇など全国上位の強豪に育て上げ、静岡県国体成年男子チームの監督としても全国3位の成績を収めている。

第2分科会

教育課程の編成と評価・改善

よびかけ：

対話を通して、幼児の思いが実現するようなカリキュラム・マネジメントしてみませんか。

分科会のねらい

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、各幼稚園・認定こども園において、全体的な計画に留意しながらも「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ教育課程を編成すること、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各園の教育活動の質の向上を図っていくこと、すなわち「カリキュラム・マネジメント」に努めるとしています。

また、幼児の行う具体的な活動は、生活の流れの中で様々に変化するものであることに留意し、幼児が望ましい方向に向かって自ら活動を展開していくことができるよう必要な援助をすること、その際、幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化などに即して指導の過程についての評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図るとしています。ここでは、幼児自らが見通しをもち活動を進めて発達していく主体的な姿を支える保育者集団の在り方が示されていると言えるでしょう。

ですが、現実には、認定こども園化等に伴って職員が増え価値観が多様化したり業務内容が増えたりして、保育を振り返る時間も取りにくくなっているのではないのでしょうか。本分科会では、無理なく自然で持続可能、かつ保育者同士の対話を基にした協働につながるようなカリキュラム・マネジメントを目指して皆様と一緒に知恵を出し合い語り合う機会としたいと思います。

研究の手がかり

- ①幼児の思いが実現し発達につながっていくような計画・実践になっていますか。
- ②保育者同士の対話を基にした保育の質向上につながるカリキュラム・マネジメントができていますか。

担当県 富山県

研修俯瞰図記号

B5

話題提供者

木谷 佳奈子 キダニカナコ
富山短期大学付属みどり野幼稚園

宮腰 亜弓 ミヤコシアユミ
富山短期大学付属みどり野幼稚園

小倉 恵子 オグラケイコ
認定こども園ひかり幼稚園

小竹 麻衣子 オダケマイコ
認定こども園ひかり幼稚園

ディレクター

藤島 秀恵 フジシマシュウエ
リンデ幼稚園

司会者

原田 由美 ハラダユミ
認定こども園いずみ幼稚園

運営委員

伊東 慶 イトウケイ
慶和幼稚園

助言者

開 仁志 ヒラキヒトシ
金沢星稜大学人間科学部こども学科教授

幼稚園教諭、小学校教諭を経て、大学で保育者養成に携わっています。
「保育者の成長過程」を研究テーマとして取り組んでいます。
全教職員の方の豊かな関わりの中で教育課程が編成され、保育の質向上につながっていく過程に少しでも関わらせていただくことができれば幸いです。

<主な著書>

- ・「はじめての保育実践研究」（単著、一藝社、2019）
- ・「3・4・5歳児の指導計画の立て方」（編著、中央法規出版、2017）
- ・「0・1・2歳児の指導計画の立て方」（編著、中央法規出版、2017）
- ・「マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論」（編著、保育出版社、2016）
- ・「保育現場と養成校のコラボレーション！実習生指導ガイドブック」（編著、北大路書房、2013）
- ・「保育指導案大百科事典」（編著、一藝社、2012）
- ・「実習日誌の書き方ー幼稚園・保育所・施設実習完全対応ー」（編著、一藝社、2012）
- ・「これで安心！保育指導案の書き方ー実習生・初任者からベテランまで」（編著、北大路書房、2008）
- ・「保・幼・小連携！交流ふれあい遊び86選ー保育所・幼稚園・小学校の子ども達みんなが笑顔で遊べる！」（単著、明治図書、2006）

タイムスケジュール

9:30	開会
	分科会の趣旨説明
9:45	話題提供者により提案
10:40	提案に基づいた グループディスカッション
11:30	質疑応答
12:00	助言者より、午前中のまとめと 午後のグループディスカッション の柱を講義
12:30	昼食
13:30	グループディスカッション
14:30	グループ発表
15:00	助言者によるまとめ
15:30	閉会

第3分科会

発達連続性を踏まえた幼児期の学び

よびかけ：

幼児期の育ちとは、誕生からの育ちと学びの連続性によるものです。

発達連続性を大切にしたい保育とは、どのようなものでしょうか。

子どもの育ちや学びのプロセスを語り合いながら一緒に考えていきましょう。

分科会のねらい

子どもの発達には、その前に必ず芽生えや備えの育ちがあります。保育者が子どもたちの遊びに関わる時、これまでの子どもの経験や学びを踏まえ、今、芽生えつつある育ちの姿に目を向けること、これから育てほしい姿を丁寧に考えていくことが大切です。

また、そのためには、保育者が連携して日々の子どもの姿を捉えていくことも重要です。

この分科会では、遊びの中にある学びのプロセスについて話し合い、「発達連続性」に視点をおきながら育ちをつなげていくことについて考えていきます。

研究の手がかり

- ①園での生活や遊びの中で見られる子どもの育ちや学びの連続性とは、具体的にどのような場面で見られる、どのような姿でしょうか。
- ②育ちや学びの連続性を踏まえた保育実践にあたり、考慮すべき環境構成や環境の再構成、援助の工夫はどのようなものでしょうか。
- ③子どもの育ちや学びの連続性について、職員間で共通理解し、実践の質の維持・向上に結び付けるには、どのような工夫が必要でしょうか。

話題提供者

田嶋 知美 タジマトモミ
小鳩幼稚園

和田 友香梨 ワダユカリ
小鳩幼稚園

吉田 美幸 ヨシダミユキ
小鳩幼稚園

渡辺 みゆき ワタナベミユキ
認定こども園聖三一幼稚園

前田 寛子 マエダノリコ
認定こども園聖三一幼稚園

ディレクター

杉山 聡理 スギヤマサトリ
藤島幼稚園

司会者

杉山 聡理 スギヤマサトリ
藤島幼稚園

運営委員

野秋 和弘 ノアキカズヒロ
エンゼル幼稚園

助言者

北野 幸子 キタノサチコ

神戸大学大学院人間発達環境学研究所人間発達専攻教授

○専門分野

乳幼児教育学、保育学、保育領域の専門性

○役職等

環太平洋乳幼児教育学学会副会長（2021年～現在）

特定非営利活動法人全国認定こども園協会アドバイザーーボード構成員
（2021年～現在）

全国私立保育連盟理事（2021年～現在）

CRNアジア子ども学研究ネットワーク（CRNA）理事（2019年～現在）

日本保育学会理事（2016年～現在）

国立教育政策研究所所外研究委員（2015年～現在）

日本乳幼児教育学会理事（2015年～現在）

○主な著書

「地域発・実践現場から考えるこれからの保育～質の維持・向上を目指して」わかば社（編著）2021年

「保育の計画と評価」北大路書房（編著）2021年

「Revisiting Paulo Freire's Pedagogy of the Oppressed: Issues and Challenges in Early Childhood Education Routledge」（共著）2020年

「子どもと保育者でつくる育ちの記録ーあそびの中の育ちを可視化するー」日本標準（監修・共著）2020年

「気軽に園内研修スタートアップ みんなが活きる研修テーマの選び方」わかば社（共著）2020年

タイムスケジュール

9:30	開会 オリエンテーション 趣旨説明
9:40	話題提供①（質疑応答を含む） 話題提供②（質疑応答を含む）
11:50	助言者によるまとめ グループワークについて （協議の柱と課題の説明）
12:30	昼食
13:30	グループワーク グループワークの発表 助言者による講評とまとめ
15:30	閉会

第4分科会

社会性の育ちと規範意識の育ち

よびかけ：

集団生活の中に出現する問題行動やトラブルは、保育者としてどのように関われば子どもの社会性の育ちに繋がるのか考えましょう。

分科会のねらい

幼稚園における集団生活は、社会生活のスタートでもあり、その中で様々なことを学び、育っていきます。子どもの社会性や規範意識も、この集団生活の中における様々な経験・刺激・負荷によって育れます。時に、これらの経験は、子どもにとって都合の良いことばかりではありません。様々な考えを持った集団の中で共生することにより、我慢や忍耐を覚えたり、皆で守らなければならないルール遵守の意識を芽生えさせていきます。

しかし、近年は、保育者も保護者も集団生活において、トラブルが発生すると、すぐにそれを取り除こうとする風潮があるのも事実です。これでは、子どもに大切な経験をさせることができません。問題が起きたとき、保育者がその事実を適切に捉え、社会性の育みに繋げられれば、問題やトラブルが良薬へと変化します。

特に集団遊びの場面では、子どもの社会性や規範意識の育ちに繋がる場面が多く見受けられることから、活発な集団遊びを通じた社会性を育む機会を有効に活用することが重要となります。では、遊びの場面で多く見られる様々な問題行動、トラブル、言い争い、ルール無視などの状況を保育者として、どのように関わることが良いのでしょうか？

この分科会では、様々な場面を想定し、子どもの社会性や規範意識の育みにつなげる対処方法について考えていきたいと思えます。

研究の手がかり

- ・ 幼児の社会性や規範意識を高めるためには、どのような保育プログラムや環境を設定することが大切であるのかを考えてみましょう。
- ・ 保育の集団生活で見られる、様々な人間関係のトラブルを、どのように対処すれば、育みの「良薬」とできるのか、具体的な事例を通して考えてみましょう。

担当県 岐阜県

研修俯瞰図記号

C2

話題提供者

吉村 洋子 ヨシムラヨウコ
杉の子幼稚園

山口 杏奈 ヤマガチアンナ
杉の子幼稚園

ディレクター

浅野 教史 アサノタカフミ
いづみ中央幼稚園

司会者

松井 純子 マツイジュンコ
笠松幼稚園

運営委員

唐嶋 田鶴子 カラシマタヅコ
認定こども園福野青葉幼稚園

助言者

今村 光章 イمامラミツユキ
岐阜大学教育学部教授

タイムスケジュール

9:30	開会 オリエンテーション
9:45	話題提供
11:15	話題提供者への質疑応答
11:45	助言者のコメント・まとめ 午後からの協議柱の設定
12:30	昼食
13:30	グループディスカッション 助言者によるまとめ
15:30	閉会

1965年 滋賀県生まれ
京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。
福井県の仁愛女子短期大学教員などを経て、2003年より岐阜大学教員。
専門分野は、幼児期の環境教育と幼児教育思想。
最近では、記述式エピソード法を用いた園内研修会の在り方について研究している。また、園内研修会で使えるワークショップやアイスブレイクなどの方法についても研究を進めている。
幼児期の環境教育研究の一環として、「森のようちえん」研究を行っている。
幼児教育の現場と、研修・研究の現場の中に自らの身をおきながら、現場の幼稚園教諭と一緒に子どもを見つめ・考える「現場主義」の研修を進めている。
著書に、「アイスブレイク」（2014年）、「森の幼稚園」（2011年）、「ディープ・コミュニケーション」（2003年）など多数。

第5分科会

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた保育実践

よびかけ：

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を保育実践例の中からみとり、保育の振り返りをし保育の質の向上につなげよう

分科会のねらい

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を中心に、それらが園での遊びや生活の中でどう育っているか、保育実践例を参考に考えていきたいと思います。

本分科会では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」への理解を深めると共に、現在抱える保育の悩みや自園の保育の振り返りを行い、保育の質の向上を目指すことを目的としています。

研究の手がかり

- ①幼児が園生活において興味や関心を持った遊びをしたり、保育者が活動に取り入れたる中で育っているものを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から振り返る。
また、年少児の姿がどのように繋がっていくのか考察し、育ちの方向性を考える。
- ②発達に違いの見られる幼児が園生活を送る中で、友達と協同性を育みながら人間関係を培っていくとき、保育者は幼児期の人間関係をどのような形で援助していったら良いか考える。
- ③様々な幼児がいる中で、それぞれの幼児にとっての「協同性」とは…相手を理解し、寄り添うとは…発達の違い故に協働することの難しさがあるのか…等、日頃に園生活を振り返る。

担当県 長野県

研修俯瞰図記号

D1

話題提供者

宮下 稜子 ミヤシタリョウコ
認定こども園慈光幼稚園

野竹 琴美 ノタケコトミ
認定こども園飯田ルーテル幼稚園

ディレクター

片桐 淳子 カタギリジュンコ
認定こども園聖クララ幼稚園

司会者

片桐 淳子 カタギリジュンコ
認定こども園聖クララ幼稚園

運営委員

加藤 喜久美 カトウキクミ
白銀幼稚園

助言者

金山 美和子 カナヤマミワコ
長野県立大学健康発達学部こども学科准教授

タイムスケジュール

9:30	開会
	オリエンテーション 他
9:40	話題提供① (30分)
10:15	話題提供② (30分)
10:45	質疑応答・フロア討議 休憩
11:40	助言者からのコメント・協議の柱の設定
12:30	昼食
13:30	協議の柱をもとにしたグループ討議
14:30	発表
14:45	助言者まとめ
15:25	閉会に向けて
15:30	閉会

○専門分野

幼児教育学、保育学、子育て支援

○学歴

新潟大学教育学部幼稚園教員養成課程卒業、上越教育大学大学院学校教育研究科幼児教育専攻修了

○職歴

私立幼稚園教諭として11年勤務の後、上越市女性相談員、上田女子短期大学専任講師、長野県短期大学講師を経て現職

○社会活動歴等

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会専門アドバイザー（平成22年～）
NPO法人ママーズ・ネット理事（平成16年～）
信州幼児教育支援センターアドバイザー・メンバー（令和元年～）

○委員歴

長野県社会福祉審議会子育て支援専門分科会会長（令和元年～）
長野県将来世代応援県民会議委員（平成29年～）
長野県私立学校審議会委員（平成30年～）
上田市子ども・子育て会議会長（平成25年～）

○著書

「遊び込む子どもを支える幼稚園カリキュラム～未来の幼児教育・保育のために～」学文社（分担執筆）2019年
「未来を拓く保育の創造」学術図書出版（分担執筆）2019年
「子どもが育つ環境と保育の指導演法」保育出版会（分担執筆）2016年
「家庭支援の理論と方法―保育・子育て・障害児支援・虐待予防を中心に―」金子書房（共著）2015年

第6分科会

子どもの育ちを共有するための様々な記録とその活用

よびかけ：

記録をもとに子どもの育ちを共有して、
令和の時代に即した質の高い保育を考えましょう！

分科会のねらい

子どもの育ちを共有して、より良い保育につなげていくためには、様々な記録の方法を学び、それを活用していく必要があります。より良い保育につなげていくための記録には、どのような方法があるのでしょうか。また、その記録をどのように活用して保育の質向上につなげていくべきでしょうか。多様な手法の中から、ご自身の園で活かせる記録と共有の仕方を共に考えていきましょう。

研究の手がかり

- ・写真、動画、文章等、様々な記録を通じて、どのような場面での活用が有効的か考察する。
- ・情報共有する相手（子ども、保護者、関係機関、保育者同士）に即した活用方法を検討して、保育実践につなげていくために必要なことを取捨選択していく。

担当県 静岡県

研修俯瞰図記号

D2

話題提供者

立林 美恵子 タテバヤシミエコ
たかおかこども園

加藤 愛奈 カトウアイナ
たかおかこども園

ディレクター

大石 竜士 オオイシタツシ
静岡聖光幼稚園

司会者

青木 英里子 アオキエリコ
認定こども園龍の子幼稚園

運営委員

荒川 慈文 アラカワヨシフミ
認定こども園新田塚幼稚園

助言者

田代 幸代 タシロユキヨ
共立女子大学家政学部児童学科教授

タイムスケジュール

9:30	開会 分科会趣旨説明
9:45	話題提供 質疑応答 助言者による講評・提案
12:30	昼食
13:30	グループディスカッション グループ発表 助言者によるまとめ
15:30	閉会

- 1989.3 東京学芸大学教育学部幼稚園教員養成課程卒業
- 1989.4 東京都文京区立湯島幼稚園教諭（至1993.3）
- 1993.4 東京学芸大学附属幼稚園教諭（至2007.3）
- 1999.3 東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程卒業
- 2007.4 立教女学院短期大学専任講師（至2012.3）
- 2010.4 立教女学院短期大学附属幼稚園園長（至2012.3）
- 2012.4 東京学芸大学附属幼稚園副園長（至2016.3）
- 2016.4 共立女子大学家政学部准教授（2018より教授）

- 文部科学省生涯学習政策局教育映画等審査委員（2002～2007）
- 文部科学省「幼稚園教育指導資料第1集」作成協力者（2011～2012）
- 国立教育政策研究所「環境教育指導資料集」作成協力者（2013～2014）
- 国立教育政策研究所「子供たちの論理的な思考力の育成にかかる調査研究」WG委員
- 園内研究会講師、教員免許状更新講習講師、教員研修会講師など

編著「目指せ、保育記録の達人！」（フレーベル館2016）

編著「遊びが育つ保育」（フレーベル館2020）

編著「保育・教職実践演習」（光生館2021）

共著「保育方法」・「保育内容 環境」（ともに光生館2009）、
「保育内容表現」（建帛社2009）、「今日から明日へつながる保育」
（萌文書林2009）、「教育課程・保育課程論」（東京書籍2008）、
「幼児期における運動発達と運動遊びの指導」（ミネルヴァ書房2014）

所属学会・資格

日本保育学会、日本乳幼児教育・保育者養成学会、日本乳幼児教育学会

第7分科会

特別な支援を必要とする幼児への指導と家庭との連携

よびかけ：

共に育ちあうために

分科会のねらい

一人一人の育ちに寄り添い、個々の実態に合わせたかかわりを大切にしながら、日々幼児と過ごしている私たち。

特別な支援を必要とする幼児には、より細やかで丁寧なかかわりが求められます。

その前提には、家庭と園との連携・協力が不可欠です。

保護者の心情を理解しつつ、必要な支援を行い、安心して園生活を送ることができるようになるためには、どのような配慮をしていけばよいでしょうか。

さらに共に育ちあうためのかかわりについて、幼児・保護者・園、それぞれの目線から考えてみましょう。

研究の手がかり

- ・園生活において幼児が抱える課題を探りながら、その子が何を求めているのかをとらえてみましょう。
- ・幼児の家庭における実態を絡めながら、その子の理解を深めましょう。
- ・特別な支援を必要とする子どもを抱える家庭に向けて、園としてのスタンスや連携の在り方について考えてみましょう。

担当県 三重県

研修俯瞰図記号

D3

話題提供者

金谷 貞子 カナヤサダコ
まつさか幼稚園

運営委員

齋藤 史朗 サイトウシロウ
豊明幼稚園

ディレクター

福田 教子 フクタキョウコ
有緞こども園

助言者

西垣 吉之 ニシガキヨシユキ
中部学院大学教育学部子ども教育学科教授

司会者

阪本 有美 サカモトユミ
暁の星こども園

私は日頃、子どもたちが子どもらしく生き、子どもらしく生活するためにふさわしい社会環境・保育教育環境・家庭環境について、子どもの心や育ちの理解という研究を進めています。

研究手法としては、子どもたちや親御さんと実際に関わりをもちながら、そこで心揺さぶられた実践を丁寧に省察していく方法をとっています。

学歴 早稲田大学教育学部教育学科教育学専攻卒業
兵庫教育大学教育研究科幼児教育専修（大学院）修了
現在 中部学院大学教育学部子ども教育学科教授
担当科目 保育内容総論・幼児理解の理論と方法・幼児指導法・
保育教育課程論・保育内容（人間関係）・保育原理・
地域子育て支援実習 等

社会における活動等

岐阜県福祉サービス第三者評価推進会議児童専門部会委員長
（現在に至る）

岐阜県各務原市・本巣市・岐南町の子ども子育て会議会長
（現在に至る）

その他、岐阜・愛知・三重県内の保育所・幼稚園の職員研修講師
・保護者向け研修の講師を務める。

著書

「乳幼児保育の理論と実践」ミネルヴァ書房 編著

「つながる保育原理」みらい出版 共著

「保育内容総論 乳幼児の生活文化」ミネルヴァ書房

「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形材料」萌文書林 共著

他

タイムスケジュール

9:30	開会 分科会趣旨説明
9:45	話題提供 質疑応答 助言者によるまとめ グループディスカッションの柱説明
12:30	昼食
13:30	グループディスカッション グループ発表 助言者によるまとめ
15:30	閉会

第8分科会

遊びが充実するための環境と保育実践

よびかけ：

豊かな教育環境「自然」について見つめなおし、
子どもたちの遊びを深めていこう！

分科会のねらい

幼稚園教育は、幼児期の特性を踏まえ環境を通して行うことを基本としています。野外のみならず、園庭や保育室で出会う様々な自然を子どもと共に好奇心や探求心をもって関わることは、保育者の役割のひとつと言えるでしょう。自然と関わる際に保育者が直面する悩みを皆さんと共有し、人的環境として浮かび上がる保育者の感性を捉え直し役割を見直してみましよう。更に共に育ちあうための関わり方について、幼稚園における事例から自然と関わる子どもの実態を探り「自然」というかけがえのない環境をきっかけに「保育において本当に大事なこと」を一緒に考えてみましょう。

研究の手がかり

- ・幼稚園内外の環境で思わず関わりたくなる「自然」があったか考えてみましょう。
- ・子どもたちから、自然に関連する発言があったか振返って保育者の関わり方を考えてみましょう。
- ・グループディスカッションを通して自然という観点から自園の保育環境と実践の在り方を考えてみましょう。

担当県 石川県

研修俯瞰図記号

E4

話題提供者

安川 菜月 ヤスカワナツキ
鶴来第一幼稚園

米澤 美穂 ヨネザワミホ
かわい幼稚園

丸山 竜二 マルヤマリュウジ
ちよの幼稚園

朝飛 ひなの アサヒヒナノ
妙源寺幼稚園

ディレクター

油田 美沙 アブラダミサ
学校法人金石幼稚園

司会者

鮎川 正 アユカワタダシ
木の花幼稚園

運営委員

足立 和正 アダチカズマサ
桜ヶ丘幼稚園

助言者

谷 昌代 タニマサヨ
北陸学院大学教育学部幼児教育学科講師

○専門分野

・乳幼児教育学 ・保育学 ・特別支援教育

幼稚園、保育所、認定こども園の勤務を経て、現在は大学にて保育者養成に携わっています。

現代は「多様性を認める」ことを理解しつつも、低年齢児期から「皆と一緒にいること」をまだまだ強く求められているような気がします。

保育における日々の外遊びや散歩、森や里山での活動等に参加させていただき、子どもたちの表情、つぶやき、試行錯誤している場面から一人一人が環境（モノや人など）と対話をしている姿にいつも刺激を受けています。子どもたちが主体的に“環境”と関わろうとする姿や友だちと関わり合う姿を観察、記録したものから、学びに向かう根底となる力を検討しています。

○主な社会的活動

・金沢市統合保育巡回指導員
・金沢市訪問サポート研修員 ほか

○書籍

「幼稚園・保育所の運営トラブル解決事例集」（第一法規出版 分担執筆）

タイムスケジュール

9:30	開会 オリエンテーション、趣旨説明
9:45	話題提供、質疑応答
10:45 <small>(対面受講者)</small>	提案に基づいた グループディスカッション
10:45 <small>(オンデマンド)</small>	助言者による講評
11:15	グループ発表
11:45	助言者によるまとめ
12:30	昼食
13:30	グループワーク グループ発表 助言者による講義、まとめ
15:30	閉会

木谷 一人 キダニカズト

いしかわ自然学校インストラクター

2002～ 小学校総合学習指導（ネイチャーゲームなど）

2002～ 保育士・小学校教員研修講師

2004・2006 幼児教育・保育のためのプログラム集制作委員

2004～ 保育園・幼稚園からの依頼を受けての自然体験指導

2006・2015・2016 幼稚園など新規採用教員宿泊研修講師

2007～ いしかわ自然学校インストラクター・スクール講師

2008～ 石川県生活環境部温暖化・里山対策室 里山こども園インストラクター

2019～ 石川県私立幼稚園協会遊ぼう研究会講師

近年、年間60回以上、幼稚園・こども園・保育園の子どもたちに自然体験を指導

第9分科会

保護者の理解を深める「保育の見える化」を考える②

よびかけ：

より良い実践につながる「保育の見える化」について語り合しましょう。

分科会のねらい

近年、ラーニングストーリーやポートフォリオ、ドキュメンテーションなど、様々な形で保育を記録し活用する方法が報告されています。これらの記録については、小学校への連携、これまでの保育の振り返りだけにとどまらず、保護者や子ども自身へ記録を開示することにより、保育の質向上を図っていかうとするねらいがあります。

このような「保育の見える化」を各園がどのように捉え取り組んでいるのか、その実践事例を踏まえながら、保育の質を高める記録の在り方についてフロアとともにディスカッションを行います。また、昨年度とは異なる実践園による発表と、少し視点を変えた話し合いを行いたいと考えています。

研究の手がかり

これまで園で行われていた記録はどのようなものであり、それをどう変えたら保育がどう変わっていったのか、また、園の保育がどのように変わっていったのか、という視点で捉えていく。

担当県 愛知県

研修俯瞰図記号

E6

話題提供者

成木 彩乃 ナルキアヤノ
とやまこども園

若月 遥 ワカツキハルカ
とやまこども園

石黒 友季子 イシグロユキコ
みちる幼稚園

ディレクター

足立 正和 アダチマサカズ
愛知文教女子短期大学附属一宮東幼稚園

司会者

足立 正和 アダチマサカズ
愛知文教女子短期大学附属一宮東幼稚園

運営委員

藤森 至 フジモリイタル
認定こども園つつじが丘幼稚園

助言者

上田 敏丈 ウエダハルトモ
名古屋市立大学大学院人間文化研究科教授

広島大学大学院教育学研究科を修了。博士（教育学）。

高知学園短期大学、中国学園大学を経て、現職。

保育者の専門性、園長のリーダーシップ、園内研修等をテーマに質的な手法を中心に研究している。「保育行為スタイルの生成・維持プロセスに関する研究」（単著）、「複線経路・等至性アプローチが拓く保育実践のリアリティ」（共著）、「子ども理解の理論及び方法」（共著）などがある。

中部地区幼児教育研究会代表、なごや子ども・子育て支援協議会委員、日本保育学会理事、日本乳幼児教育学会常任理事などを務める。

タイムスケジュール

9:30	開会 オリエンテーション 話題提供 質疑応答 助言者からのコメント
12:30	昼食
13:30	グループディスカッション まとめ
15:30	閉会

第10分科会

幼児教育と小学校教育の円滑な接続

よびかけ：

幼児期から児童期に育てたい力とはなにか。幼児の発達の姿から考えよう。

分科会のねらい

幼児が、幼稚園・こども園等の生活から、小学校の生活や学習へ移行する際に、その違いに段差を感じ、戸惑うことも少なくありません。この段差を少なくすることは、保育者に求められる課題の一つと考えられます。

では、どのような力が幼児に育っていることが必要なのでしょうか。幼児は、本来、自ら周囲の事象に関わり、興味関心を抱き、知りたい、わかりたい、できるようになりたいという意欲をもっています。園の生活を通して、こうした主体的な活動が満たされ、自分って結構できるんだという「自己肯定感」をはぐくみ、自信をもって生活していく力が育つことが大切です。

では、こうした力を育てるためにはどのような幼児の姿を、保育の中で求めていけばよいのでしょうか。それぞれの園の実践から、そのことを学びあいましょう。

研究の手がかり

- ・幼稚園・こども園の生活から小学校に移行するときに、どのようなことに戸惑いを感じていると思いますか。
- ・学びの芽生えを支える土台となる力とは何かを一緒に考えましょう。
- ・アプローチ・カリキュラムではどのような活動をしていますか。

担当県 愛知県

研修俯瞰図記号

F1

話題提供者

荒木 綾子 アラキアヤコ
はなの木幼稚園

佐藤 実芳 サトウミホ
はなの木幼稚園

山下 愛 ヤマシタアイ
飯野ひかり幼稚園

上田 桃歌 ウエダモモカ
飯野ひかり幼稚園

ディレクター

近藤 智子 コンドウトモコ
幼保連携型認定こども園中山松元幼稚園

司会者

近藤 智子 コンドウトモコ
幼保連携型認定こども園中山松元幼稚園

運営委員

朝元 百 アサモトモモ
城北幼稚園

助言者

齋藤 善郎 サイトウヨシロウ
元・椋山女学園大学教授

昭和50年 早稲田大学教育学部教育学科教育心理学専修卒
昭和51年 豊橋才能教育幼稚園に幼稚園教諭として就職し、昭和58年同
園園長になり、以後、田原赤石幼稚園園長、林丘幼稚園、幼保連携型認
定こども園豊橋才能教育こども園園長を歴任。

その間、昭和62年以降、大学等の非常勤講師として学生の指導にもあ
たってきました（昭和62年～平成7年 豊橋短期大学、平成8年～現在 豊
橋創造大学短期大学部、平成21年～24年 岡崎女子短期大学、平成22年
～28年 椋山女学園大学、平成23年～24年 愛知東邦大学、平成26年～
28年 名古屋女子大学）。

平成29年から椋山女学園大学教授になり、「保育相談支援」「保育内
容総論」「保育指導法（言葉）」等を担当し、令和4年3月退任しまし
た。

平成24年・25年度愛知県幼児教育研究協議会専門委員として、幼小接
続について研究し、平成27・28年度愛知県教育振興基本計画検討会委
員を歴任しました。

○主な著書

- ・「幼児教育相談」（共編著1994）
- ・「子どもが生き生きする保育」（共編著1996）
- ・「子どもの心を育てる保育」（共編著2000）
- ・「子どもを見る変化を見つめる保育」（共著2011）

タイムスケジュール

9:30	開会 分科会の趣旨説明
9:45	話題提供 質疑応答 助言者によるまとめ
12:30	昼食
13:30	グループディスカッションに 対する協議の柱を考える グループディスカッション グループ発表 助言者によるまとめ
15:30	閉会